

道 路 の 美 化 問 題

内務技師 佐 藤 利 恭

緒 言

道路の實體が未だ甚だ貧弱な我國の現情に於て、本問題を論することは時機尚早、主客顛倒の誹は免れぬかも知れぬ、然し道路法發布せられ、道路改良會創立されて茲に十年の星霜を経來た今日であるから、此の種の問題に就て識者の一顧を煩し、世の進展に醒めしむるは、強ち無用の業でもあるまい。

由來我國土は世界の樂園と謳はれたる風景勝地であり、

損失である。

地勢極めて變化に富み、美しき丘や清き流れを有し、氣候は溫和で植物良く繁茂す、斯る環境に養はれたる我國民は、

殊に道路や鐵道工事は、山を削り谷を埋める土工が其の主なる仕事であるため、恰も道路工事は自然を破壊する暴

擧て自然の耽美者であり、愛好者たることは誠に理の當然と言はねばならぬ。

然るに文化の進展に伴ひ、產業愈々興り、農業に、林業に、牧畜に、鑄業に、地上の有ゆる資源を探り盡さんため、鐵道を敷き、道路を開き、發電水力を起す等、各種の工事は地貌を著しく變化し、風景の破壊を招き、自然美を毀け、原始の面影を奪ひ、来るべき國民の手より永遠に國土の自然を觀稱し、享樂するの機會を奪ふことは吾人の忍び難き

君の如く思惟せられ、世の識者の擧笑を招くことは、吾等土木技術者的新しく考究せねばならぬ大なる問題である。謂ふ迄もなく、道路は甲地より乙地に運輸交通を圖るため一般公衆の自由に利用し得べき施設である、國と云ふ大家屋の廊下であらねばならぬ、從て只單に甲地より乙地に通ずる丈では無味乾燥である、バラツクの廊下では満足出来ない、不識不知の間に交通の目的を達せしめ得る美しき樂しきものでなければならぬ、道路其物が一種の美術品であつて欲しい、斯く努めることに依て、現代人のあこがれる原始の面影を永久に保存し得、荒涼たる自然も僅の人工を加え更に自然美を増すことが出来るのである、茲に人工美と謂ふは、天を摩する大厦高樓を櫛比したる眺めに非ず、眺め見飽かぬ景色、それは遙に霞む地平線の裡に消ゆる平原の道路であり、或は斷崖或は絶壁、其間巧みに奇岩綠樹を點装したる一幅の南畫を展開したる如き山間部の道路でなければならぬ。

旅行者の楽しみは、快速なる汽車の旅に非ず、見知らぬ土

地の初見参の願に非ず、一浴して疲れたる汗を洗ひ流したる後の一杯の美酒にも非ず、其の道程に於て心ゆく計り自然の懷に親しみ得ることこそ旅に於ける得難き賜である。汽笛一聲躁忙して東海道を夢で過ぎねばならぬ今の世人々に比し、浮き世を外に五十三次の旅枕重ねたる彌次喜多の昔は如何に自然であり如何に樂しかつたことであらう。今日吾人の希ふことは、彌次喜多の夫れにあらねども、少なくとも現代式交通機關に依て、樂しき旅を果し得べき手段方法を講ずるにある。

然らば如何なる手段方法を講すれば道路を美化し得るであらうか、茲に其二三を擧げ世の批判を仰ぎたい。
路線美即ち道路の鳥瞰美に就て考察するに、道路の線形としては如何にも自然であつて無理がない而も天然の地形と能く融合するものでなくてはならぬ、例へば何々平野と稱せらるゝ大平野の道路であれば成べく道幅を充分廣く採

て直線に造り、廣々とした氣分を含ませたい、そして歩車

ことを得れば更に結構である。

道の區別を設け美しい常盤樹の並

木を植栽したい、出来るなれば植

樹帶を設けて四季折々の花壇を設

ければ更に妙である。是に於て歩

行者に慰安を與え、自動車旅行者

には安全にして迅速なる高速度美

圖

を味はしめることが出来る。山地

部の道路であれば、自動車交通に

必要なる前視距離さえ考慮すれば

ヘヤーピン曲線も面白い、奇岩絶

第

壁の勝景地、神社佛閣等の名稱地、

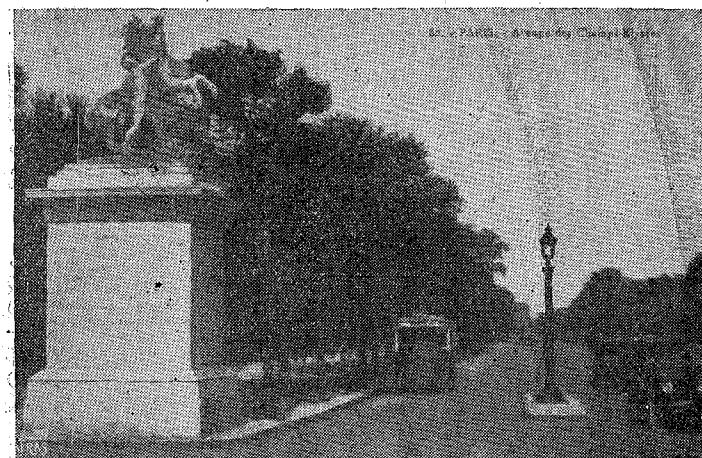
古跡地、天然記念物所在地、等は

幾分迂回になつても、是非沿道の

内に取り入れたい、許すなれば眺

望佳なる場所には暫し車を停め、

風景を觀賞し得べき施設をなし、温かき番茶に渴を醫する



溪流に沿て山を下る路線には、勝景地の觀望に便するため、殊更に數度架橋する必要もある、又丘地の道路としては切土盛土は成べく避け自然の起伏に従て造りたい。丁度明治神宮の表參道の如く、或は又巴里のサンゼリゼー街の如く、中凹い縱斷勾配を有する道路は極めて美的のものである、殊に其の前方小高き正面に鳥居とか凱旋門とか記念碑とかある場合に殊に佳しい、第一圖は遙に凱旋門を眺めたる巴里サンゼリゼー街を示す恐らく世界第一の美的街路であらう。

沿道美化即ち道路沿線の美化、是が最も必要であり、最も大切な事柄である。而して實行上甚だ困難な問題が多い、比較的勝景に乏しき米大陸に於ては、目下如何に道路の美化問題に關して努力を拂いつゝあるか、茲に其の大梗を記せば、例へばワシントン州に於ては、一九二七年法律を以て沿道地主は道路の美化を圖る爲、道路の構造及び維持に支障を來さざる限度に於て、監督官廳の許可を得て、芝生、植樹又は生籬を設置し得るの途を講じ、且つ道路の中心線より左右三百呎の區域内に於て道路の美觀に貢献する天然物の破壊を來す行爲を禁止し、之を犯すものを處罰するの規定を設けて居る、又インディアナ州に於ては、沿道美化協會を創設し、各種専門家を委員とし道路の美化に努め、メソーランド州では林務當事者と協力して道路美の發達を圖り、其他カリホルニア州、オクラホマ州、デラウエア州等の各州に於ては茲二、三年間に於て數百哩に亘り並木の植栽を實行する等、極力道路の美化に就て努力を拂ひつゝあるは、誠に時宜を得たるものと云はねばならぬ。

沿道地主は道路の美化を圖る爲、道路の構造及び維持に支障を來さざる限度に於て、監督官廳の許可を得て、芝生、植樹又は生籬を設置し得るの途を講じ、且つ道路の中心線より左右三百呎の區域内に於て道路の美觀に貢献する天然物の破壊を來す行爲を禁止し、之を犯すものを處罰するの規定を設けて居る、又インディアナ州に於ては、沿道美化協會を創設し、各種専門家を委員とし道路の美化に努め、メソーランド州では林務當事者と協力して道路美の發達を圖り、其他カリホルニア州、オ克拉ホマ州、デラウエア州等の各州に於ては茲二、三年間に於て數百哩に亘り並木の植栽を實行する等、極力道路の美化に就て努力を拂ひつゝあるは、誠に時宜を得たるものと云はねばならぬ。

我道路法に於ては、沿道の區域を定め、其の區域内に於ては一定の行爲を制限又は禁止して居るが、此の規定の精神は、道路本來の目的を遂行する上に於て將來に支障を生ぜしめないと云ふ、極めて消極的動機に基くもので、未だ沿道の美化問題に就ては考慮して居ないやうであるが、今後に於て愈々沿道の區域を決定する際には、是非共美化問題をも考慮に容れて、適當の決定を見ることを切望する。

此頃國立公園を設定して、國民の保健に資せんとする運動があるが、斯る計畫は天然自然のかくれたる風景を、道路を開設して世に紹介せんとする計畫に過ぎないのであるから國立公園計畫と云ふも實は山間部に於ける道路計畫に過ぎない、斯る場合の道路に就ては、特に沿道美並に路體美に就て充分の考慮を費さねばならぬ、若し夫れ普通の道路であつても、此の心して道路計畫を進むれば我國に於ては到る處に自ら國立公園が現出するであらう。

今日吾々が旅行して最も不快に感じ淺間しく思ふものはいかゞわしき廣告板である、是等も亦選舉運動の立札の如

く或程度迄一般的に制限すれば、是に於て貴重なる風致を損することも少ないし、國家的には冗費を省き得る利益がある、電柱も亦不都合の代物である。是等は速かに地下線に改むるか又は道路より視野の外に移させたい、殺風景な送電線塔の亂設に至ては誠に言語同断である。是等は道路美化協會の如き團體を創設して、充分に取締りたい、其の他附近の風致に支障ある工場不調和の建物等に就ても相當監督するの途を講ずることが急務である。

路 體 美

路體美即ち道路の實體と其の附屬物との美化問題に就てあるが道路の實體とは、路面、路肩盛土及び切取の方法、隧道等であり、附屬物とは、橋梁、渡舟場、溝、並木、支壁・柵・道路元標、里程表及び道路標識、道路修理用材料の常置場等である。

實體の美化として路面美に就ては、凹凸不陸なく相當硬くして滑らず、且つ飛塵を生ぜないものが好ましい、色は

沿道の綠との對照上白き鋪装を用ふれば美的なるばかりでなく、暗夜見易き利便がある、之に反し沿道美に乏しき場所又は都市内の道路としては黒き鋪装が調和がよい。

道路に相當幅の路肩を有する場合は、玉石を以て路面を境し、路肩は芝生としたい、芝生としては其の性強健で雜草に強く日陰でもよく繁茂する野芝を擇びたい、芝生の生命は其の美しき鮮綠と、柔で滑かな肌觸りと、冷たい感度がある、そこには生々とした晴々しい、如何にも輕快な感じがある、従つて之に對すれば自ら快潤となり落付た氣分となる、同時に芝生は夏の強烈な光線を柔け、乾燥を緩和し、塵埃を防止し、豪雨や霜柱の害を蒙らぬ等の利益がある。

法面の美化に就ては、路肩同様に芝生としてもよいが場所に依りては龍の鬚を植へてもよい、之は野芝よりも更に耐陰耐濕性で冬季も綠りを保つから法面の維持が甚だ容易である利益がある、尙地味氣候が許すなれば其の間に躊躇、薔薇、萩、丁字其他之に類する花木を配すれば更に妙であらう。

隧道は、歩行者には極めて不愉快のものであるから成

るべく避

けたがよ

い、余儀

なく設く

る場合で

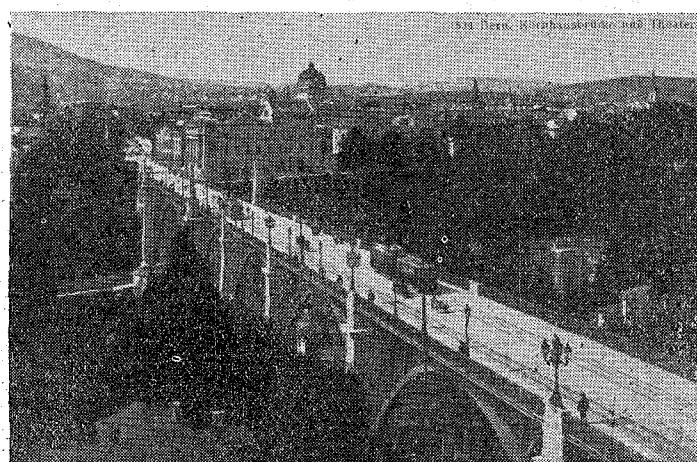
も曲線隧
道は避け

たがよい。二
隧道内

は充分明
くなるや
うに照明
に注意せ
ねばなら
ぬ。



第三圖



たせるやうに心掛けたい、第二圖は其の一例を示す。

橋梁美

に關して

は架橋地

點及び其

附近と調

和する型

式を採用

せねばな

らぬ、總

じて鐵橋

よりも

混擬土橋

がよい、

下路橋は

面白くな

胴門の構造は附近の景色との調和を圖り自然の雅味を持

い、成べく上路橋としたい、一般には拱橋が最も美的である

深い谷に架するものであれば開側拱橋が望ましい高欄照明柱の如きも橋體との調和は勿論其の周圍の景色に融合するものとして欲しい、第三圖はスイス國ベルン市に在る橋梁であるが、如何にも美しい眺である。

第四圖は米國バサデナに於ける拱橋である、橋梁を特に曲線中に置き如何にも自然の感がある。

側溝の美化 これは左程大きな

問題でないが場所に依ては明治神宮の参道のY字溝の如く玉石仕上

けとすれば風味が多い。

支壁としては土抱石垣や擁壁や胸壁がある、何れも美觀上からは表面混擬土仕上を避け、雜割石仕

上げともない、其の雜割石も表面は瘤出仕上に止めて苦む

置に就ても細心の注意を拂つて欲しい。昭和四年十二月



す庭石の雅趣を添へたい。切取部の土抱石垣の高は、胸壁の高と同一に大體三尺位に止め、是に蓄積又は葛蔓の類をからませたい。胸壁も亦混擬土造りを避け土壘式構造としたが良い、近來金網作りの柵を用ふることがあるが美觀上からは面白くない。盛土の土抱へとして高い擁壁を造る場合は、其の沿線の地域にヒノキ、ヒバ、スギ、マツ、ヒマラヤスギ等の針葉樹を植へて、遠望より高く伸びることは視野を遮るから禁物である、其他夜間の交通に便する爲照明設備を施す場合は、其の設計に就ては他の道路標識と共に充分に美的考慮を費し、且つ建標位